

船舶事故調査報告書

令和5年7月5日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和4年10月20日 04時30分ごろ
発生場所	東京都小笠原村父島西側の烏帽子岩付近 二見港防波堤灯台から真方位241°1,520m付近 (概位 北緯27°05.2′ 東経142°10.9′)
事故の概要	漁船天祐丸は、東南東進中、岩礁に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和4年10月25日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 天祐丸、10.81トン
船舶番号、船舶所有者等	TK2-1961（漁船登録番号）、個人所有 第294-9235号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に破口等、風波により船体が破壊
気象・海象	気象：天気 雨、風向 南西、風力 2、視程 約2.6km 海象：うねり 波向南西、波高約2.0m、潮汐 下げ潮の中央期 日出時刻：05時33分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、まぐろはえ縄漁の目的で、10月15日20時00分ごろ小笠原村二見港（父島）港奥の二見漁港を出港し、父島北西方沖の漁場において、16～18日の間、1日2回の操業を行っていた。</p> <p>船長は、19日13時00分ごろ1回目の操業を終え、操業中から降り出した雨が強くなっていたので2回目の操業を中止し、漁場で漂泊していたが、翌20日も雨が続けていたので同日の操業を中止し、04時00分ごろ帰航を開始した。</p> <p>船長は、二見港港口に位置する二見港第3号灯浮標に向かう針路に自動操舵を設定し、約4ノットの対地速力で本船を東南東進させ、レーダー及び目視で同港までの前路に他船がないことを確認し、操舵室の船横に渡って設置した板（以下「渡し板」という。）の上に左舷側を向いて腰を掛け、右舷側に配置された寝台の縁に背をもたせ掛ける姿勢でスマートフォンの操作を始めた。</p> <p>船長は、ニュースや天気予報を確認した後、落語の音声データを再生し、それを聞いているうちにいつしか居眠りに陥った。</p> <p>本船は、南西方向からの風やうねりにより、左方に圧流されながら航行し、父島西側の烏帽子岩付近の岩礁に乗り揚げた。</p> <p>船長は、衝撃で目を覚まし、主機を中立とした後、周囲を確認して</p>

	<p>乗り揚げたことに気づき、二見港を出港してきた僚船に、無線で救助を依頼していたところ、機関室のビルジ警報が作動したので、船底に破口等を生じて浸水していると思った。</p> <p>船長は、僚船に救助されて二見漁港に送られ、僚船の乗組員が海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>本船は、海上の状況から流出防止措置が行えず、21日08時00分ごろ風波により船体が破壊され、付近海域に散乱していることが確認された。</p> <p>本船は、本事故当時、漁獲物約2tを積載し、喫水が船首約0.8m、船尾約1.6mであった。</p> <p>船長は、19日の2回目の操業を中止して休息していたこともあって、本事故当時、疲労を感じておらず、睡眠も十分にとれていたが、帰航を開始した際、前路に航行の支障となる他船がいなかったのが緩み、居眠りしてしまったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、漁場で本船を漂流させて休息する場合、レーダーのガードリング機能（設定した距離環内に他船等と接近したときに警報を発する機能）を利用していましたが、帰航を開始するに当たって同機能を解除していた。</p>
<p>分析</p>	<p>本船は、南西方向から風やうねりがある状況下、自動操舵で東南東進中、操船に当たっていた船長が居眠りに陥り、航行を続けたことから、左方に圧流されていることに気付かず、烏帽子岩付近の岩礁に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、前路に航行の支障となる他船がいなかったことで気が緩み、また、背をもたせ掛ける姿勢で渡し板の上に腰を掛けたことから、覚醒水準が低下し、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、南西方向から風やうねりがある状況下、本船が、自動操舵で東南東進中、操船に当たっていた船長が居眠りに陥り、航行を続けたため、左方に圧流されていることに気付かず、烏帽子岩付近の岩礁に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独で操業する漁船の船長は、操船に当たる際、同じ姿勢を続けず、立ち上がって身体を動かすなど、居眠りを防止する措置を採ること。また、レーダーのガードリング機能を活用することが望ましい。